

対象学年					
幼稚園・保育園	小学校			中学校	一般
年長	低学年	中学年	高学年		

いわなつかみ



プログラムの概要

生きた魚をさわることは、それを仕事にしている人や釣りを趣味にしている人以外では、経験すること自体少ないのではないのでしょうか。大人でさえそうなのですから、子ども達にとってはなおのことです。このプログラムでは参加者ひとりひとりが自分で生きた魚を捕まえ、捌き、食します。

この一連の作業を経ることで、子ども達一人一人が多くの生き物の「いのち」をいただくことで自分が生きていることを実感する機会となるでしょう。

所要時間：2～3時間

銀河の里キゴ山

1. 活動のねらい

- ・いわなを「つかむ」活動をとおして生き物を含めた自然にふれることができます。
- ・魚をつかむ、捌く、食するという一連の活動を通して、いのちの大切さやつながり、について学びます。

2. 活動場所

- ・いわなつかみ：イワナ池（銀河の里から徒歩 10 分ぐらい）
- ・調理：野外炊飯場（どんぐり広場、日本海広場）

3. 活動人数・規模

- ・30～80 人程度
 - ※ イワナ池には一度に 20～25 名程度は入れます。
 - それ以上の人数の場合は交代制で行います。

4. 準備するもの

- ・団体・個人：バスタオル、サンダル ※児童の実態に応じて、水着（水深は水が多いときで 30cm 程度）、着替え、軍手
- ・自然の家：包丁、イワナ串、チラシ、食塩、炭、かまど、バケツ

5. 活動の手順

(1) 事前準備（銀河の里に来る前の準備）

- ・普段の給食の時の残菜の量や、個人の好き嫌いについて調べておくとよい。

(2) 実際の活動

- ・準備を整え、イワナ池に移動します。（徒歩 10 分程度の距離にあります）。
- ・順番にイワナ池に入り、いわなとふれ合います。手で捕まえても直ぐには水の外には上げずに何度も放し、何度も捕まえるようにします。
- ・イワナをつかまえられない児童には、つかまえた児童から手渡しでふれられるよう声かけします。
- ・捕まえたいわなの感触やえらやひれ、口の歯のならびなど観察させます。
- ・気温や天候にもよりますが、30 分程度このふれ合いの時間をとります。
- ・一人が必ず一匹はイワナを捕らえ、バケツに入れます。
- ・野外炊飯場に移動します。
- ・指導員より命の話聞きます。
（イワナにふれた感触やその感想、普段の食べ物の好き嫌い、いただきますの意味等）
- ・指導員よりイワナの捌き方の説明を受けます。
- ・一人一匹ずつイワナを捌きます。
- ・イワナに竹串を刺し、塩をふり網にならべます。
- ・自分で捌いたイワナを食べます。

6. 活動のまとめ

- ・食べ物についての意識の変化について話し合う。
- ・活動の前後で給食の残菜の量や、普段の個人の好き嫌いや食べ残しについて変化があったかどうかを比較できると良い。

7. 活動上の留意点

- ・水に濡れますので、活動時の気温によっては活動途中での着替えへの配慮が必要です。
- ・児童が魚を捌く際には、怪我人が出ないようにグループごとに指導者が入れるような役割分担があると良いです。
- ・児童に「生物の命を奪うことの意味」を充分に感じさせることが活動の効果を高めるポイントです。